

共催セミナー(ランチョン/スイーツ/モーニング/イブニング)のご案内

ランチョン・スイーツセミナーの整理券を下記の時間帯に配布いたします。

なお、数に限りがございますので、無くなり次第終了とさせていただきますのでご了承ください。

モーニング・イブニングセミナーの整理券配布はございません。直接会場にお越しください。

配布場所：1階・アトリウムプラザ

配布時間：11月23日(木・祝)・24日(金)・25日(土) 各日7時45分～ ※無くなり次第終了

ランチョンセミナー1

共催：IQVIA ソリューションズ ジャパン (同)

日 時：11月23日(木・祝) 11時35分～12時35分

会 場：A 会場(9階・KFM ホール「イオ」)

座 長：武田 理宏(大阪大学大学院医学系研究科 医療情報学)

大阪大学医学部附属病院 医療情報部

テーマ：データモデル標準規格 OMOP と国内における活用の課題と展望

演題名1：OMOP CDM ～概要および関連サービス提供企業からの視点～

演者1：池田 信一郎(IQVIA ソリューションズジャパン合同会社)

Observational Medical Outcomes Partnership (OMOP) Common Data Model (CDM) は、リアルワールドデータ研究に特化したデータの標準規格であり、NIH、FDA 及び米国研究製薬工業協会(PhRMA)の協同プロジェクトに端を発する。2014年からはオープンサイエンスコミュニティである OHDSI (The Observational Health Data Sciences and Informatics) に引き継がれており、成果物はオープンソースである。IQVIA は当初よりこの活動に貢献しており、リアルワールドエビデンス創出をはじめとして種々の関連サービス提供も行っている。本題目では OMOP CDM の概要と活用可能性について簡単にご紹介し、セミナー全体の準備としたい。

演題名2：データモデル標準規格 OMOP と国内における活用の課題と展望

演者2：青柳 吉博(国立がん研究センター東病院 医療情報部)

OMOP とは、Observational Medical Outcomes Partnership の略で、アメリカで始まった、観察研究の方法論やデータ基盤の開発を目的としたプロジェクトです。OMOP では、様々なデータソースから得られた医療データを共通のデータモデルに変換し、標準化された分析ツールを用いて、医薬品や医療技術の安全性や有効性を評価することができるようになりました。OMOP の成果は、OHDSI (Observational Health Data Sciences and Informatics) という国際的なコミュニティに引き継がれ、現在もさらなる発展を続けています。本邦においても最近注目されており、様々な活動が行われています。本発表では OHDSI や OMOP の紹介とともに、国立がん研究センター東病院での活動について報告します。また、OMOP を利用する際の課題についても考察します。

演題名3：データモデル標準規格 OMOP と国内における活用の課題と展望

演者3：木村 映善(愛媛大学医学部医療情報学講座)

RWD 研究を効果的に行うには、それらに加えて分析データベースの標準化や用語の統制が必要である。かつて、米国 FDA が主導して医薬品の安全性や有効性を検証するために、様々な RWD を統合すべく共通のデータモデル(CDM)として OMOP を開発した。その後 OHDSI として独立し、世界各国の RWD を統合するために CDM の策定と統制用語集を開発した国際的なコミュニティとして発展している。この OHDSI にわが国からも参画することが望ましいが、わが国の医療情報を国際的な統制用語集やデータベース構造にあわせることが必要である。愛媛大学は Yuimedi 社と共同研究下に OHDSI を含めた国際的な RWD 研究のフレームワークをわが国に導入できるように模索している。本セミナーでは OHDSI の意義とその参画に向けて何が必要なのかを解説する。